

## 「夜の街」後遺症

新型コロナ感染の「緊急事態宣言」が全国で解除されてすぐ、都知事は「東京アラート」を宣言し都庁とレインボーブリッジを真っ赤に染め、東京が危ないと強く印象付けた。ところがアラートの意味もあいまいなまま数日後、事態が収束したとして宣言を撤回し、途端に都知事選に立候補表明する手際の良さ。「特に夜の街へのお出かけは控えて」「夜の繁華街など3密リスクの高い場所には注意して」と強く訴え、さらに記者会見で「夜の街注意」のボードを高く掲げ集中攻撃を重ねた。新宿・歌舞伎町などを悪者に仕立て、市中感染の広がりから目をそらすイメージ作りに見えた。

菅官房長官(当時)も「圧倒的に東京問題」と発言。「諸悪の根源は東京」と口走った県知事もいて、「東京由来」の名指し一色から沖縄なども感染激増。「夜の街」の一括りから「社交飲食店」「接待を伴う飲食店」などと言い換えもあったが「夜」の攻撃に変わりなく、ネットは「東京は危ない、夜の街はみんな危ない」と飛び交った。槍玉の飲食店はたまったもんじゃない。予防ガイドラインを守り客席を間引き、店を早く開けて昼飲み客をつかみ、深夜の営業延長、通販やテイクアウトを始めたり増やしたり、客足激減、苦心さんたん惨憺の日々。



夜の街・歌舞伎町の居酒屋は4人席を客1人に間引くなど必死に営業中

政治家の発言は人びとの意識に重くのしかかり後遺症は続く。国は自粛を求め、自助、共助、公助という。巣ごもり強いられストレスが高まり、筋肉減退、認知機能低下も指摘される。外気に触れて気分転換。行きつけ信頼の店を選び、栄養たっぷり免疫力向上。換気も徹底。美術館や博物館は入場予約制でゆったり観覧。電車やバスの手すりに触らない。エスカレーターは前の人の吐く息避けて斜め後ろに立つ。ジョギングは真後ろを走らない。帰宅したらズボンを玄関で着替え、手洗いに顔も洗う。東京外しなどGo Toの不公平感が目立つが、用心用心重ねて街にも公園にも旅にも出かけ賑わいを取り戻す。

文・写真 林 莊祐